

[117]語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1516164>

出版情報：語文研究. 117, 2014-06-13. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

学会彙報

▼平成二十五年度 学位論文題目

学部

水上勉「雁の寺」孝——推敲からうかがう性愛と母恋の物語——

篠田 菜央

夢野久作「獵奇歌」について

藤岡 志帆

小川未明童話研究——「赤い蠟燭と人魚」を中心に——

松本 千穂

中島敦「文字禍」孝

三坂 紘未

『枕草子』における清少納言の男性観

——斉信と幸成の二人物に注目して——

物語における和琴——源氏物語を中心に——

西村定雅の「すい」について

大原幽学研究——その和歌の教導性——

江戸時代における音楽観——雅俗意識の変遷を中心に——

中山 成一

中村三近子研究——その思想と文学史的位置づけをめぐる——

脇山 真衣

複合動詞「——こむ」の歴史の変遷

遠藤 明日香

レ系列指示詞における人称用法の史の変遷

副詞「ざっと」の史的研究

熊本市方言における文末詞「ツタイ」について

筑前方言若年層の文末詞について

——モンとその派生のものを中心に——

修士

近代翻訳漢語の研究——日中間の語彙交流を中心に——

陳 偉

上代日本語のサ行子音について

——『日本書紀』における朝鮮固有名表記を通して——

李 潤基

接頭辞の歴史的研究——接頭辞が句に接続する用法を中心として——

養育語彙の史的研究

日韓における漢語の対照研究——『隣語大方』を中心に——

柴田 祥平

『おもろそうし』における主格表示について

鄭 令任

——王府オモロから首里方言へ——

京伝の読本と中国善書——『明心宝鑑』を中心に——

宮城 愛実

趙 晶

『清少納言集』考

—その成立に関わる一考察— 明 石 麻 里

『狭衣物語』における漢詩文受容の研究 閻 紹 婕

都の錦の研究

—嘶本『軽口はなし』から見る述作姿勢の再検討— 平 山 聖 悟

博 士

『新訳華嚴経音義私記』の研究

—私記所引の字様をめぐって— 賈 智

ロシア資料による鹿児島方言の史的研究 久保 蘭 愛

▼受贈図書(二〇一三年十月～二〇一四年三月)

村上龍青少年主人公作品研究—主体性確立で危機を乗り越

えて 徐 明 真

福岡県先賢人名辞典(復刻版) 三 松 荘 一

近世雅文壇の研究—光格天皇と賀茂季鷹を中心に—

盛 田 帝 子

桃園文庫目録 上巻中巻下巻 東海大学附属図書館

部落解放史の最前線・啓発・教育の現場と研究をつなぐ

福岡県人権研究所

THE JAPANESE, AINU, KOREAN, ALTAIC (MANCHU-TUNGUS,

MONGOLIC, TURKIC), UGRO-FINNIC (FINNISH,

HUNGARIAN), BASQUE, MAYAN, POLYNESIAN (MAORI)

AND DRAVIDIAN (TAMIL) LANGUAGES IN THE LIGHT

OF HEURISTICS BENON ZBIGNIEW SZALEK

「もろろ」と「へてもろろ」の意味・用法—それに対応する

タイ語表現の考察— Siritak SIRIMACHAN

研究と資料 第七十輯 研究と資料の会

台湾大学典藏全文刊本4 『長澤伴雄自筆日記』第一巻

敦煌字・日本字 亀 井 森

石清水物語の研究—第三系統伝本の校本と影印— 石 塚 晴 通

待兼山論叢 第四七号 文化動態論篇 宮 崎 裕 子

大阪大学大学院文学研究科

〒八二一八五八一 福岡市東区箱崎六一一九一

九州大学文学部内九州大学国語国文学会

(Tel・Fax：〇九二一六四二一三九五)

ホームページアドレス

<http://www.lit.kyushu-u.ac.jp/japano/>

(研究室のアドレスも記していますので、学会関係・住所変更等の各種連絡にも御利用下さい。)

《規 定》

- 一、投稿は原則として九州大学国語国文学会会員に限るが、それ以外の方に寄稿を依頼することもある。
- 二、投稿原稿は四百字詰原稿用紙三十枚内外を一応の規定とし、その際、二枚程度の要旨を添付されたい。
- 三、原稿の採否等については運営編集委員会に一任されたい。
- 四、刊行は年二回を原則とする。
- 五、刊行会費は現在年額維持会員四千円(各号二部配布)、通常会員二千円(各号一部配布)とする。
- 六、執筆者には別に二部を贈呈し、希望者には抜刷を実費で分ける。
- 七、会員以外の購読者は毎号ごとに誌代を納められたい。